

## 『2007年よこみち孝弘さんと新年交礼会』

### よこみち孝弘ごあいさつ

2007年1月13日(土)

京王プラザホテル札幌

皆さん、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。  
この1年が皆様方にとってより良い1年になりますように、心からお祈り申し上げます。

さて、期待をもって迎えた新年ですが、年の初めから殺人事件のイヤな報道ばかりで、しかも微に入り細に入りこんなことを報道してどんな意味があるのか、社会にとって意義があるとは思えないマスコミの報道です。

もっと他に大切なことがたくさんあるではないですか。こんな報道が続けられる中で、我々の知性がマヒさせられてしまうのですね。

やはり大切なことをしっかりと見つめていかなければならない、こんな思いを非常に強く年の初めからしている次第です。

去年12月に内閣府が主催した雇用問題のシンポジウムがありました。その時に、経済財政諮問会議、これは内閣総理大臣の諮問機関ですが、そこに八代さんという大学の先生がいます。この人は、問題を起こして辞めた本間さんの推薦で、その後釜に座った人です。この人がどういう発言をしたかと言いますと、「今の日本社会は格差がある。その格差を是正するために、正規社員の待遇をパートや派遣の人たちなど非正規社員の待遇の水準に合わせるべきだ」と主張されました。つまり賃金や待遇その他を下げて非正規社員の水準に合わせるべきだ、それで格差がなくなるじゃないかっていう主張をされたんですね。これが大学の教授の話ですよ。

いまパートや派遣で働いている方は働いている人全体の4割です。そしてその4割の人々のおよそ40%の人々は給料が月収10万円以下です。

8割の人が正規社員になりたいと希望しているけど、なれないでパートや派遣で働いておられる。こういう現実に日本の社会があるわけですよ。

そういう状況の中で、賃金を下げて一体どうするのでしょうか。OECDの基準で日本の貧困層は先進国の中でアメリカに次いで2番目ですよ。それほど拡大してきています。5%ぐらいの人たちが所得と資産をどんどん増やしていっていますが、残りの中間層の人々はどんどん所得を減らしていっているのです。そこにいろんな問題が起きてくる日本の社会の背景というものがあるわけですね。

何のためにこんな発言をするのか？やっぱり大企業のコストをダウンするためなんですね。経済、企業の競争力をつけるためと八代さんは言っておられます。

国民の生活のことは全然頭にないんですね。こんなこと許していいのでしょうか。

そして一方で日本の経団連、今の会長はキャノンの御手洗さんで、前がトヨタの奥田さんでした。そういう日本の錚々たる大企業のトップの人たちで組織する経団連がいま提案しているのは何かというと、年収400万円以上のサラリーマンの人には労働基準法の適用をやめようということですね。つまり、1日何時間働こうと時間外手当は払いません。深夜労働であろうと休日労働であろうと、変わらないって言っているわけですよ。

いま日本は、世界で一番長時間労働の国です。30代のサラリーマンの人の3割は1日12時間以上働いておられます。これをさらに長時間にして、それでなくても少子化の問題、親子のコミュニケーションが充分ではないなど、いろんなことが指摘されている時に、これ以上の長時間労働をさせる、経済団体のトップの人たちは一体何を考えているのだろうと。世の中、本当にみんなおかしくなっているというふうにしか私には思えません。

それは何のためか？企業の競争力をつけるためとっています。自分たちのため、あるいは株主のため。

近ごろ口を開けばみんな「株主、株主」という社会になりました。

先ほども話がありましたが、戦後最長の好景気の中でその実感がないのはなぜかと言いますと、給料が下がっているからなんですね。今までの景気がいい時との違いは何か、今回はですね、役員賞与と株主配当が増えています。しかし従業員給与は下がっているんですね。今まではそうじゃなかった、従業員にもちゃんと還元されていました。

私は、だいぶ昔になりますけど土光さんというですね、東芝などの社長をされ、「土光臨調」といわれた土光さんからお話を聞いたことがありますけれども、「会社の社長というのは何を考えているか、それは何と言っても従業員とその家族の生活なのだ」と。土光さんの会社はもちろん何万人もの従業員がおるところですから、「その人たちの生活のことを考えると、本当に夜も眠れない。そしてその従業員の人たちと1年間一生懸命働いて国に税金を納めた時に、ああ今年もこれだけ国家のために奉仕することができた」と、「そのことを誇りに生きているんだ」と、こういう話を聞いたことがございます。今の経団連の幹部の方で、こういう方おられるでしょうか。「従業員の生活？そんなのおまえたち従業員が考える」ということでしょうか。

ストック・オプションで自分の所得を増やすことばかり考えているような本当に情けない社会ですね。こんな日本の社会になっています。

この基本の所をしっかりと変えていかなくてはいけないと、痛切に感じております。

話は変わりますが、去年の暮れに妻と2人でクリント・イーストウッド監督の映画『硫黄島からの手紙』と『父親たちの星条旗』共々見て参りました。あの映画を見て、クリント・イーストウッドが言いたいことはただ一言だと感じました、「戦争に勝者はいない。勝利者はいない。みんな戦争の犠牲者だ」と。そのことが本当に鮮明に印象に残るいい映画だと感じました。見た方もたくさんおられると思いますが、見てない方はぜひ見に行っていたきたいと思えます。

硫黄島では日本の兵隊約2万4千人が亡くなっているんですね。ところが、その戦死者の方々の遺骨が収集されたのは半分の1万2千人分です。まだ1万2千人分の遺骨が残っ

ているんですよ。その残っている遺骨の上に滑走路を作って、自衛隊と米軍機が訓練やっているんですよ。国家が命令をして国民を戦争に駆り立てて、亡くなった戦死者、そういう方の遺骨収集というのは国家の最大の仕事ですね。他の国ではどこでもみんなやっています。

アメリカは今、北朝鮮とこうやってもめている時でも、ちゃんと北朝鮮と話をして、朝鮮戦争で行方不明になったアメリカ兵の遺骨収集をやっているんですよ。ベトナムとの国交回復もそれが前提だったのです。

日本のようなこんな冷たい国家はないですね。そのことも私どもは忘れちゃいけないと思います。戦争っていうのは本当にみんな犠牲者です。

イラクをご覧ください。アメリカ兵3千人が亡くなりました。負傷者はその10倍以上ですよ。イラク人がどれだけ亡くなっているのか、あるアメリカの大学のレポートでは65万人です。最近では1カ月で2～3千人が亡くなっていますでしょう。ああいう状態を作り出したのは誰か。それはやはりブッシュ大統領ですよ。非常に大きな責任があると思います。

そしてそれに協力したのが日本政府じゃないですか。今も支持しているでしょう。アメリカ本体でさえ間違っていたとブッシュ大統領が言っている時に、日本政府はいまだに間違っていたと言っていないですよ、一言も。

そして安倍さんはいまヨーロッパに行っていますが、先の国会で防衛庁が省に昇格し、自衛隊の海外任務が本来任務になった、これからどんどん自衛隊を海外に出しますという発言をヨーロッパでされています。一体何を考えているのでしょうか。

そして本当にマスコミはもっと報道しなければいけない、こんな事態が進行しているということを。それは、陸上自衛隊に中央即応集団という防衛大臣直轄の部隊ができたことです。中身は何かというと空挺部隊、落下傘部隊と、ヘリ戦団、特殊部隊、特殊防護部隊です。特殊部隊というのは、日本以外ではだいたい暗殺や拉致などをやるようなことも任務とする部隊ですけどね。この部隊の司令塔は、日本の自衛隊の海外派遣の司令塔ですよ。

その司令塔がどこに本部を置くかということ、神奈川県のカンパ座間、米軍基地の中に置くということです。そしてその米軍基地に陸軍第1司令部というのがワシントン州から移ってきます。これは統合作戦本部ですね。

アメリカ軍の陸海空のアジア・太平洋・中東・インド洋、この地域の作戦を決定するところです。その本部が日本の海外派遣の司令塔と一緒にカンパ座間の中に入るというんですよ。そして本来任務で安倍さんいわくどんどん海外に出すと、こういうことですね。

安倍さんは7月の参議院選挙では憲法改正を争点にすると言われていています。私どもは絶対に7月の参院選で自民党の多数を許してはならないと思います。

そのために今年はさらに皆さんと一緒に全力を尽くして頑張っていかなければならない、そんな思いでございます。

年が明けてから1月6日に夕張に行って後藤市長と会ってきました。

後藤市長に、全国最低の生活とはどういうことですか、誰がそんなことを言っているの

ですかと聞きましたら、国が決めた基準だとおっしゃっていました。

どういう基準かという、夕張はいま人口1万3千人で、今ではもう少し減っていると思いますが、全国の1万3千人前後の規模の町の行政資料を集めたのだそうです。そして、それらの町でどんなことをやっているのかを調べて、全部の町がやっていることは夕張でもやってもいいと。しかし一つでもやってない町があったらそれはダメだといって、図書館、美術館、公民館、銭湯、老人ホームもダメだということになったというんです。

負担はどうか。それらの町の公営住宅、町営住宅や下水道の料金についてはその一番高い町の料金を適用すると。つまり一番大きい負担、そして最低の行政サービスということで日本一最低の生活をと国は言うのです。これはいじめだと思います。

もちろん夕張市政に一番責任があることはありますが、それにしても、これはもういじめとしか言いようがないですよ。

いま学校に通う子ども達は、午後になったら校内の暖房が止められてしまうので、ジャンパーを着て授業を受けていますよ、あの産炭地で。

私は市長と会って「市民みんなで助け合おう」と言いました。ひとつは、夕張市には寄付条例がないので、まず寄付条例を作って、例えば子どもの教育に対する寄付を受けるなど、学校の先生方も協力してやろうじゃないかということをお北教組の皆さんにも話をしています。

あといろんな事業についてですが、これは民間の事業者の方々が夕張に行って活動するということになればいけませんので、いくつかのことについてはお願いをして話をしてもらっていただいております。

それにしても夕張市役所の部長も課長もみんな辞めちゃうという話ですよ。

後藤市長に聞いたところ、市長の給与がカットされて職員より安くて月額25万円だそうです、額面ですよ。手取りがどうなるかという、15～16万円くらいにしかならないですね。交際費が一切なくなったので、あらゆる所に出る会費、冠婚葬祭含めて全部個人負担になるそうです。だいたい月10万円くらいかかると言っていました。家に持って帰るお金が4万とか5万円くらいとかで、とてもこれでは助役や教育長をお願いすることはできないと嘆いていました。国はそこまでやるのか。これは国のいじめですね。

私どもはこの前の郵政民営化の選挙と言われたあの後、何があったのかをしっかりと思い出しておかなければなりません。障がい者の方々には障害者自立支援法、こんなに負担が増えるような法律を強行採決したじゃないですか。あるいはビックリするほど増税になったり、医療費の自己負担が増えたり、いろんなことが起こりました。

あの「郵政！郵政！」だけだった選挙の時、私は「いや、選挙の後は増税が来ますよ。医療費負担が増えますよ」と訴えていましたけれども、本当にそういう状況になってしまいました。

日本人はちょっと忘れっぽいんです。だから絶対忘れていただきたくないと思うのです、この1～2年で政府がやってきたことを、道がやってきたことを。

これを忘れないことが、4月の荒井道政の誕生、上田市政の継続という力になります。7月には小川参議の参議院選挙もございませう。全国比例区の選挙もありますので、それら

の勝利にもつながっていくと思います。

いじめというのは子どもの世界のことが報道されていますが、だいたいは大人の社会の反映ですね。大人の社会のいじめほど、子どもよりも陰湿なものはない。その最たるものが国と道による夕張市いじめだと私は思っています。

最後になりますが、私の母のことについてです。いま満90歳で、やがて91歳になります。非常に元気でありましたけども、1年くらい前からやはり少しずつ認知症が進んできました。私も今まではそういう話を経験者から聞いたり、本を読んだりしていましたが、やはり自分で体験すると大変で、特に私の妻だとか、弟夫婦だとか、大変な思いをしているわけでございます。今は落ち着いて、グループホームにお世話になっております。

皆さんから「ネットワーク通信」で妻が書きましたことに激励をいただきまして、大変ありがたく思っております。私も自分で直面して、今まで例えば介護は「在宅介護」、障がい者福祉は「施設から地域へ」と考え、その流れは今でも基本的には間違っていないと思いますが、ただしかし、在宅介護も地域の受ける生活にも限界があるわけですね。そこで、限界が来たときには施設がちゃんとバックアップするということが必要でございまして、そうするとグループホームにある障がい者の施設も介護の方もそうですが、夜勤の人の配置などが非常に少ないというようなことを自分で体験いたしまして、そういうことはちゃんと国会で議論をして、改善するところは改善していかなければならないと、そんな思いであります。

そんなことで皆さん方に大変ご心配おかけいたしましたけれども、この病気はどうも治るようなことはないようでございますが、いま本人は落ち着いて生活をしているということを皆さん方にお伝えしておきたいと思っております。

新しい年ですが、本当に大事な4月の統一地方選挙、そして7月の参議院選挙がございまして、みんなで力を合わせまして頑張ってお参りたいと、私もまた決意を新たにして頑張ってお参りたいと思っておりますので、今度ともどうぞご支援をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。